

駿河ほねほね団活動報告

本多佐おり・坂本朋実・江林奏絵



10月29日に標本を作製している様子

本多佐おり

最近は一気にメンバーが増え、活動の幅も広がってきました。

夏には、小中学生の皆さんと一緒にサンマの解剖や頭骨標本を作るイベントを行い、また、皆で協力して撮影した写真から、3Dプリンタを使ってゾウの頭蓋骨のレプリカを製作するなど、今後ますます多方面での活動が出来る体制が整ってきたように思います。個人的には、ずっと手がけてきたコウベモグラの標本がいよいよ完成間近です。小さく似かよった形をしている手根骨にはかなり苦労しました。本やインターネットなどで調べても、コウベモグラの手根骨一つ一つの形がはっきりと分かる物が無かったので、参考にする事ができず、この部分に関しては手探り状態です。けれど、難しいほど面白さもあって、今回のコウベモグラの解剖ですっかり手根骨に魅了されてしまいました。手の骨はバラバラにしない事も多いですが、可能なら今後も手根骨一つ一つが分かるような形の標本をぜひ作ってみたいです。

坂本友実

私はライフワークとして動物の骨を集め続けております。駿河ほねほね団の存在を知ってからというもの、月に1回程度、下田から清水まで片道125km通っております。

魔法の液体ハイターとオキシドールの力を借りながら、冷凍庫に眠るハクビシン、子熊を除肉したり、夏休み期間中は子どもたちに混じってサンマの頭骨標本を作製。サンマのホネに沈着した透き通るブルーカラーは胆汁の色だと

知ってびっくり。素敵な知識が順調に増えております。

ヘラジカの骨の部位を特定する活動では、それぞれの足の骨にどのヒヅメが適合するか試行錯誤をしていました。まるでシンデレラを探してガラスの靴を履かせている王子の気分でした。大学生の頃は美術大学のアトリエと敷地内を占領してクジラやダチョウの除肉作業をしておりましたが、社会人になってからは適切な場所を確保できずに協力者も見つけれず嘆いていた部分もあったので、人生のオアシスを発見できてとても幸せです。

江林奏絵

10月にシイラの頭骨標本を作製しました。シイラはスズキ目・シイラ科に分類される大型の魚で、食用として漁獲されています。今回作成したのは前頭部が大きく張り出した、立派なオスの個体です。私が魚の頭骨標本を作成するのは、サンマに続き2回目の挑戦です。

作業の流れはメスやピンセットで、ある程度の除肉を行い、ハイターに漬けます。肉が溶けてきたら更に細部の除肉を行い、これを肉がなくなるまで繰り返します。除肉が終わったら、キシレンに1週間ほど漬けて脂を抜き、乾かして組み立てたら完成です。

哺乳類と比べて頭の骨の数が多いため、ハイターに漬けすぎるとバラバラになってしまいます。初心者では、バラバラになった頭骨を組み立てるのは至難の業…。今回は細かい骨と骨の繋ぎ目は、くっつけたまま作成しました。しかし、肉が残ると黄色く変色してしまうので、見えるところは肉が残らないように、繋ぎ目は溶かしすぎないようにと加減するのが難しかったです。それでも取れてしまった骨は、文献やインターネットの写真を見たり、団長に聞いたりして、何とか組み立てて完成させることができました。次回までに頭骨の構造を覚えて、自力で完成させることが目標です。

ちなみに体の部分はスタッフがおいしく頂きました♪スーパーで売られている魚でも、根気さえあれば頭骨標本の作製ができるので、興味のある方は是非チャレンジしてみてください！